

# 研修医通信 vol. 10

2カ月の地域医療研修で一番印象に残ったのは、MSWの西さんと香川のホテルの大浴場であれこれ話していた際の「結局、ここに残るのは私たちですから」という強い覚悟の言葉です。あと10～20年の間、僕は何度も転勤を繰り返すと思います。1つの病院に勤務するのは長くても4～5年でしょうか？患者さんの苦しみを軽減することはもちろんですが、ずっとその地域で働いているスタッフの方々の思いを大切に、色々な職場で身に付けたノウハウを伝えることで、その地域の医療水準を高めていけるよう努力します。

宴会研修、登山研修、駅伝研修、温泉研修などもあり、本当に充実した2カ月でした。ありがとうございました。

(西浜 康太)



的矢牡蠣を食べる小里、西浜(右)

『寒い寒い』とみなさん言っていますが、伊勢に比べればはるかに『あったかい』と思う今日この頃。『あったかい』と感じるのは気候だけでなく、病院スタッフの皆様や地域の皆様のおかげでもあるのでしょう。

あつという間の1ヶ月…毎週毎週様々なイベントを楽しんでいます。くまの駅伝(実は日赤チームで参加しましたが)、県外地域医療研修in香川、救急救命士さんとの交流、出会いふれあい新年会…ここにあげればキリがありません。折り返し地点に来てしまいましたが、まだまだ色々経験したいと思います。しかし、病院内ではまだまだ慣れないことが多くスタッフの皆様には迷惑をかけたばなしです。あと1ヶ月さらに迷惑をかけることもあるかもしれませんが、スタッフの皆様とたくさん交流できればいいと思います。

さて、1ヶ月間ともに過ごした他病院の『戦友』たちもお別れです。本当にいい仲間に出会えたと思います。一人残されすっごく心細いですが、新たな『戦友』との出会いが楽しみです。いったいどんなヤツが…次号、乞うご期待。

(小里 大基)

あつという間の1ヶ月。東京にいたら決して経験出来なかった日々。出会えた人々。短すぎて本当に残念です。スタッフの方々と距離も近く、緊張感漂う中でも和気藹々と仕事が出来る素晴らしい環境と、本当に同期なのかと驚くほど優秀な研修医の仲間、時に厳しく大体やさしい上級医の先生方に囲まれて、非常に濃密かつ有意義な時間を過ごすことができました。救急外来、病棟、診療所、往診と、自分自身の判断、責任がそれぞれに非常に重い様々な現場で、緊張感を持って医療に従事できたのは計り知れないほど大きな経験になりました。自分の力不足を痛感し、これまでの不勉強を深く反省しながらも、前向きに頑張ろうと強く思えました。患者さんのその疾患だけでなく、その方の家族や生活、ひいては人生そのものに接していくような、地域医療の醍醐味を少しでも味わうことができました。東京に戻ってからも、紀南で学んだことを胸に刻み、辛いときはみんなも頑張っているんだと励みにしながら、日々精進していきたいと思っています。とにかく何度でも言いたい。この紀南での日々は僕にとって一生の財産です。先生方、スタッフの方々、この地域に携わる全ての皆様、本当にどうもありがとうございました。

(坂内 太郎) 奥野先生の行きつけのバー@伊勢にて



よっちゃんにて



## 編集後記

今回は編集長を勤めさせていただきました。

さて、クイズです。直上の写真はそれぞれ誰でしょう？この写真は「出会いふれあい新年会」というところにかく出会おう、ふれ会おうという会です。事務の室谷さんの知り合いが知り合いをよんで、大勢の方が参加しました。参加者は紀南病院関係者だけでなく、熊野市役所の方、議員の方などなど、非常に幅広いものでした。会では余興もあり、私たちが特別用意していたわけではな



いのですが、ステージに上がることになりました。紀南病院の忘年会でも披露した「天城越え」を研修医4人で大熱唱！え？これは研修医に見えないです？そうなんです、室谷さんが用意して下さった衣装を身にまとい、もはや原型を留めず…

答えですが、左から、坂内、横田、小里、西浜です。皆さん、正解しましたか？

(編集長:横田 万里子)

追伸:3か月間ありがとうございました。